

あたりまえの反対はありがたい

出雲市立浜山中学校 三年 梶谷瑞希

みなさんは、ご飯を食べることができ、好きな学習ができ、友人と楽しく笑い合える、そんな生活を「あたりまえ」と思っていないですか。私は、今までその生活を「あたりまえ」と思っていました。学校へ行き、授業を受け、給食を食べ、部活をする。そして、一日中友人と語らうという生活をみんな日々送っていると思っていました。

しかし、その考えは今年の二月下旬に衝撃的なニュースで覆りました。ロシアとウクライナが戦争を始めたのです。このニュースを聞いたとき、私はとてもびっくりしたことを覚えています。

そして、その日から毎日、戦場の悲惨な映像がテレビに映し出されました。また、そのいくつかは、信じられないほど心痛める映像だったのです。

例えば、私たちと同じ年齢の子供たちが、祖国を守るために鉄砲を持ち、戦う練習をしている映像がありました。あるいは、空爆により家が焼け落ち、家族も命を落としてしまった子供の様子もありました。まったく戦争に関わりのない子供が一瞬で何もかもを失った映像です。

日本も昔は、戦争をしていました。そして、たくさんの尊い命が奪われました。また、世界で唯一、原子爆弾が投下された国です。社会科の授業でたくさん勉強し、広島へ修学旅行に行ったとき、戦争の残酷さを自分では分かっていたつもりでした。しかし、テレビで見るウクライナの様子はとても残酷で衝撃的でした。私にとって、この戦争は生きている中で初めて目にする戦争です。今、学校へ行き勉強ができること、友人と笑い合える「あたりまえ」の日々に感謝しないといけないと心から感じました。今、私がこの作文を書いている瞬間にも、ウクライナやロシアで傷ついている人々がいます。もしかしたら、それ以外の国や地域でも戦争によって傷ついている人々がいるかもしれません。戦争で得られることなんて、何も無いのに。私は、ウクライナやロシアをはじめ、戦争や紛争によって苦しんでいる世界の様々な人々に平和な日々が戻ってきて欲しいと願っています。

そして、私はこの戦争について考えている時に、一つ心に刻んでおきたいと思っていることがあります。それは、「あたりまえ」の反対は「ありがたい」という言葉です。これは、今年学校で開かれた命の授業で講師の先生が、私たちに伝えてくださったメッセージの一つです。

講師の先生は、交通事故でお子様を亡くされました。そのエピソードを踏まえ、命の尊さを私たちに伝えてくださいました。その時に残された言葉が、「あたりまえ」の反対は「ありがたい」でした。

その日から私は、日々の言動に気をつけるようになりました。今までの私は、その場の雰囲気や人々を傷つける軽はずみな言動をしていました。妹とけんかをした時もその場の感情で、

「邪魔。もうどっかにいなくなって。」

と強い口調で怒り、時にはそれ以上に酷い言葉で責め立てることがありました。そして、心の中では、こんな酷いことみんなあたりまえに言っていると思い、こういう言葉を続ける自分に何の疑問も感じていませんでした。

しかし、「あたりまえ」の反対は「ありがたい」という言葉を聞き、自分の言動が恥ずかしく思えてきました。そして、今は相手の気持ちに立って話をすることや行動することを心がけています。この言葉は、私の日常を変えてくれました。日々の全てが「ありがたい」という気持ちに変わったのです。

今私は、相手を大切に思いながら日々の生活を送っています。そして、何より家族の大切さに改めて気づくことができます。みなさんの日々の過ごし方はどうですか。誰かに腹を立て、攻撃的になってはいませんか。毎日がかけがえのないありがたい日だと感じながら生活を送れていますか。「あたりまえ」の反対は「ありがたい」の気持ちを持つことで優しい気持ちになれるのではないのでしょうか。そして、それは今世界で傷つけ合っている人々を救うためにも大切な心構えではないのでしょうか。